



ついに北海道にコロナウイルスが上陸か

道内男性 新型肺炎

道、行動歴明かさず 検査は初診の11日後

道内在住者で初めて新型コロナウイルスの感染が確認された50代男性は、最初の受診から11日後の14日になって、新型コロナウイルスの検査が実施され、陽性が判明した。検査まで2度にわたって肺炎の症状が確認されていたものの、道は報道陣に対して、検査に時間がかかった理由や感染経路など、多くの情報を明らかにしなかった。



「患者の国籍も言えない。北海道居住としか言えない」。14日午後、道庁での対策本部会議終了後、道幹部はこう繰り返した。中国から訪れていた女性の感染が判明した1月28日に続き、道は14日も男性患者の立ち寄り先などの行動歴や所在自治体を明らかにしなかった。

検査で肺炎が確認されたから、ウイルス検査まで10日かかったことについて、道の担当者は「最後の医療機関が肺炎の状況を見て、

労働者と協議した」などと繰り返したが、厚労省は同時刻に行った発表で50代男性が日本国籍と発表。関係者によると、男性は道内圏在住で札幌市内の病院で治療を受けているとされる

感染が判明した50代男性の症状と経過

1月31日	発熱し、せきと倦怠(けんたい)感が現れる
2月3日	医療機関を受診
4日	再受診し、エックス線検査で肺炎を確認。紹介を受けて別の医療機関を受診し、抗生剤治療を開始
11日	症状が改善せず3カ所目の医療機関に入院。再診に肺炎を確認
12日	集中治療室(ICU)で人工呼吸器を付ける
14日	道内の衛生研究所で、新型コロナウイルスの検査を実施。陽性と判明

国内流行拡大の局面

新型肺炎

新型コロナウイルスによる肺炎(COVID-19)での国内初の死者が出たのは14日、東京や和歌山、北海道、沖縄など7都府県で次々と確認された。感染経路不明の患者も、感染の連鎖が続いている。政府は現時点で国内流行を認めないが、専門家は流行拡大の局面に入ったとみる。



- 居住地 不明① 千葉② 東京③ 和歌山④ 北海道⑤ 沖縄⑥ 岩見沢⑦
- 発症日 患者 ① 30代女性 ② 70代男性タクシー運転手(の表裏の息子) ③ 50代男性外科医 ④ 20代男性会社員 ⑤ 70代男性(④の病院の外来患者) ⑥ 60代女性タクシー運転手 ⑦ 屋形船従業員(⑥の濃厚接触者) ⑧ タクシー組合従事者(⑥の濃厚接触者) ⑨ 50代男性 ⑩ 60代男性 ⑪ チャーター便の帰国者 ⑫ 30代男性

専門家「連続的に発生」 政府はまん延を認めず

「陽性だった。3日後に16時半すぎにまたらされた。高熱が続き、呼吸困難が続き、意識がなくなり、15日後、病院に搬送された。肺炎が原因で、ウイルス

の遺伝子検査で国内初の感染者が判明した。この患者は、1月14日に東京で発症したと推定されている。この患者は、1月14日に東京で発症したと推定されている。この患者は、1月14日に東京で発症したと推定されている。

「今までの対応策をしっかりとやっていけば、まん延は抑えられる」とする。一方で、感染が拡大している現状を踏まえ、政府は「まん延を認めず」という立場を堅持している。

黒龍江省支援 道内にも300名、友好提携が中。黒龍江省は、道内にも300名の支援者を送る。友好提携が中。黒龍江省は、道内にも300名の支援者を送る。

インフル患者数 前年の6割

1医療機関当たりのインフルエンザ患者数



空知管内でインフルエンザの患者数が低水準で推移している。岩見沢、滝川、深川の3保健所の医療機関の定点観測で、2月3～10日の週の1医療機関当たりの患者数は、3保健所を合わせて、67・25人と、前年同期の6割ほどにとどまる。各保健所は、国内でも感染者が増えている新型コロナウイルスによる肺炎を警戒し、人混みを避けたり、うがいや手洗いの感染予防が広がっていることが大きいとみている。

各保健所の2月3～10日の1医療機関当たりの患者数は、岩見沢が25人、滝川が22人、深川が20人と、前年同期の6割ほどにとどまる。各保健所は、国内でも感染者が増えている新型コロナウイルスによる肺炎を警戒し、人混みを避けたり、うがいや手洗いの感染予防が広がっていることが大きいとみている。

所を合わせた1医療機関当たりの患者数は108・14人と、これをピークに減少し、新型コロナウイルスの感染拡大の報道が出始めた1月中旬からは減少した。小中学校の3学期が始まった。2月26日の週からは、岩見沢を中心に感染が広がった。患者数は再び増加した。また、岩見沢保健所は、前年同様インフルエンザ対策だが、各家庭での感染予防策をすすめているため、今シーズンは感染の広がりが少ない。